置戸消防100周年記念式典

置戸の消防が公設消防として発足してから100周年を迎え、記念式典が11月20日に中央公民館で開かれ、200人を超える消防団員、関係者が出席して１世紀の節目を祝いました。

明治44年、黒沢下駄工場で働く人たちを中心に木材業者や商店主が私設消防組を組織し、野付牛村から分村し２年目の大正５年に梨田全吾氏を組頭に公設置戸消防組が認可されて100周年を迎えました。勝山は同年に私設上置戸消防組ができ、同８年に公設認可。境野は同13年に私設境川消防組が組織され、翌年公設認可されました。消防組織は昭和14年に置戸、上置戸、境川の消防組が置戸消防団に統合改組され、戦後の同22年には置戸消防団を結成。同47年に北見市、訓子府町、端野町、置戸町の１市３町による一部事務組合北見地区消防組合が発足し同組合置戸消防団となりました。

式典では、置戸消防100周年記念事業実行委員長の木村茂廣置戸消防団団長が式辞を述べ、「昭和29年の洞爺丸台風、同38年の置戸駅土場の大火、同50年の集中豪雨による水害など幾多の困難を乗り越え、今日までの置戸消防を築いてきた先人のご労苦に深甚なる敬意を表し、100周年の意義を心に刻み、自らの地域は自ら守るという先人の熱

1919年（大正８年）置戸消防組

式辞を述べる木村茂廣実行委員長

挨拶する井上町長